

新しい埋蔵文化財センターに 文化財展示室がオープン いにしえの千歳の軌跡を知らう

埋蔵文化財センターは、これまで使用していた施設が老朽化したことや出土した文化財が増え手狭になったため、平成17年に閉校した旧長都小中学校の校舎を改修し、今年4月に移転しました。

新しい埋蔵文化財センターは、これまでの出土品の調査や保管業務を行うほか、新たに市民の皆さんに千歳の文化

財に触れその魅力を感じることもできるよう埋蔵文化財の展示室を開設しました。

展示室では、つぎの4つのテーマごとに文化財を展示し、千歳の文化と歴史をわかりやすく学ぶことができます。

こころの文化

展示のひとつ目の柱は、土偶や石棒せきぼうなど祭事に使用された出土品や死者をとむらう墓のようすを紹介することです。古代の人々が持っていた豊かな心の文化を感じることができま

す。「こころの文化」と名づけた展示コーナーでは、土製品や石製品などを展示しています。

土製品では、国指定重要文化財「動物形土製品」の複製品を単独で展示しています。正面からと側面から見た印象が異なる貴重な文化財です。

このほか、同じく国指定重要文化財の「土製仮面」の複製品や市指定文化財の「男性土偶」、スタンブ型土製品、1歳前後の子どもの足型がついた土版どばんなどを展示しています。土のやわらかさや温かさ、



縄文時代に想いをはせる

キウス周堤墓群

国指定史跡の「キウス周堤墓群」は、今から3000年ほど前の縄文時代後期の共同墓地です。地面に丸く穴を掘り、掘り上げた土を穴の周囲に積み上げて土手を築きました。墓の周囲を土手がめぐることから「周堤墓」といわれます。

「キウス周堤墓群」は、直径が最大75メートルもある大規模なものです。縄文時代の墓としては日本で最大級のものです。また、この時代に大規模な土木工事が行われていたことを現在の地表面で見ることができる数少ない貴重な遺跡です。



(財)北海道埋蔵文化財センターより提供